

令和7年度 調布市立第一小学校 学校経営計画（学校長 樋川 宣登志）

学校の教育目標	
○よく考え、自分から進んでやりぬく ○思いやりの心もち、なかよく協力する ○じょうぶなからだで明るい生活をする	
目指す学校像(ビジョン)	
「子どもたち一人ひとりを大切にする学校」	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	学校の主役は子どもたちであり、一人ひとりの子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。学校は集団で生活し学ぶ場であるが、子どもたちは一人ひとり、違う環境で育ち、違う心と個性、願いをもって生きている。子どもたちが、自分は大切にされ、尊重されていると感じ、安心して生活して学ぶことができる学校を目指す。 ◇各学年・学級は落ち着いていて、授業規律は保たれ、基礎学力の定着も望ましい状況である。 ◆主体的に学習に取り組んだり追求したりする態度や、表現力が十分でない。 ◇おだやかで協力的な子どもが多く、大きな事故などは少ない。 ◆耐性が十分でなく、逆境に弱い。自分の気持ちを伝えることに消極的である。 ◆不登校児童や登校しぶり、学校生活への適応に困り感を抱いている児童も少なくない。
中期的な経営目標	
① 自律した行動のとれる判断力、たくましくしなやかな心を醸成する。 ② 主体的に学ぶ気持ち、自らの考えや思いを表現できる力をはぐくむ。 ③ 運動への親しみと健康への関心を高める。 ④ 安全・安心な学校生活を確立する。 ⑤ 子どもたち一人一人の個性を尊重し、伸長していく。 ⑥ 保護者・地域の教育力を活用して学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①読書活動、文化文芸的活動の充実を図り、児童の潤いある心をはぐくむ。（読書旬間、文化体験活動の充実、通年）	①授業観察（約 100 回）、校内研修（月 1 回）を通して、授業スタイルと授業規律や UD について全校で共有し、学習効果を高める。	①なわとび・持久走の充実、「ちょこブラわん」の推進、アスリート招へいによる出前授業などにより、運動の習慣化や意識向上を図る。
②交流活動を通し、互いを尊重する心、自尊感情を育てる。（縦割り班活動、特別支援学校やアメリカ S との交流、市福祉教育 WG との連携）	②校内研究「表現を豊かにする言語活動の工夫～個別最適な学びを通して～」を図る授業を構築する。（研究授業 4 回以上）	②養護教諭による保健指導、ゲストティーチャーによる保健授業などを通して、健康への関心を高める。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①アンケートで、文化文芸的活動や読書に関する肯定的評価 80%以上。	①アンケートで、学力の定着に関する肯定的評価 80%以上。	①②アンケートで、健康・体力に関する肯定的評価 70%以上。
②アンケートで、交流・体験活動に関する肯定的評価 80%以上。	②アンケートで、表現力に関する肯定的評価 80%以上。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 安全・安心な学校生活の確立	⑤ 個性の尊重と伸長	⑥ 保護者・地域の教育力の活用
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①複数の教員の目で児童の様子や関係を見守る。（教科担任制、交換授業などの取組。定期的な状況把握、いじめ防止・不登校対策委員会による組織的対応。通年）	①特別支援教室専門員・SS による授業補助や個別指導、アスリートティーチャーの増員等により、個別最適な学びを目指す。（通年）	①コミュニティスクール運営委を中心として関係諸団体と連携し、その教育力や安全に係る協力を集め、教育活動の充実を図る。
②教育活動や施設の不断の点検、アレルギー対応のルール徹底などにより、学校事故を未然に防止する。（通年）	②校内委員会の活用、SC・SSW や関係機関の活用を通して、支援の必要な児童、不登校児童、保護者への支援を充実させる。（通年）	②PTA 行事や地域行事について、保護者・地域と連携して活性化を図る。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①発見したいじめ案件の解決 100%。	①②アンケートで、相談・対応に関する肯定的評価 80%以上。	①地域連携等についての CS 運営委における肯定的評価。重大な交通事故、犯罪被害 0 件。
②アレルギー事故 0 件		②教職員の PTA・地域行事への積極的な参加回数増。

人材育成・組織運営
◇主幹・主任教諭をリーダーとして各分掌に配置し、自主的・計画的に職務を進めさせる。管理職が各リーダーとの打合せを通して、ミドルリーダーの育成を図る。
◇研究主任、OJT 担当をリーダーに校内研究・研修を開催し、教員の資質向上を図る。
◇業務の効率化、職員のライフワークバランス改善を目指し、会議・業務等の整理削減、ICT 活用を進める。SSS や副校長補佐を計画的に活用する。

